

描く材料を指導する意味

横浜国立大学 教育学部教授 小池 研二

描くことの意味

描くことは私たちにとって本来特別なことではありません。小さな子どもが何の疑問もなくお母さんや友達の姿を楽しく描いているのはごく普通の光景です。小学校でも絵を描く活動は全国の学校で行われているでしょうし、中学校の美術でも描くことが学習内容の基本であることには変わりありません。一方、中学校美術では図画工作に比べ教科としての専門性も一段と高まり、多様な表現も行われるようになります。また生徒自身も作品鑑賞などを通してさまざまな表現に興味をもつようになります。心にイメージしたものを思った通りに表してみたいと考えることは自然なことです。美術は形や色彩といった造形の要素を使って生徒一人一人が考えたことを目に見える形に表します。そのためには材料や用具を使いこなす基本的な技能も重要になります。

学習指導要領解説では

本資料では絵の具、筆、パレットなどの描くための材料や用具の扱い方について説明しています。すでに述べたとおり描くことは中学校の美術でも基本であり、特に絵の具(ここでは水彩絵の具)の使用は外せないでしょう。学習指導要領の解説では、第1学年で「水彩絵の具は描画の基本となるものであり、繰り返し扱うなどして絵の具や筆の基本的な使い方をしっかり身に付け、一人一人が自分の表したいものを思い通りに描けるよう確かな指導をすることが大切である」としています。第2学年及び第3学年でも「第1学年で身に付けた技能に関する資質・能力を柔軟に活用して高めていく」ことが述べられており、3年間にわたってしっかりと指導していく必要があると明確に述べられています。

中学校における絵の具の存在は大きいと言えるのですが、現代社会においては絵の具や筆を使用する機会は多いとは言えないでしょう。このような状況の中で絵の具を扱うことが苦手と感じる生徒がいても不思議ではないかもしれません。絵の具の扱いに困難を感じる生徒に対してどうすべきか、また扱い

なぜ絵の具などの材料や用具の扱いについて指導するのでしょうか

はできたとしても、よりいっそう絵の具の特性を生かした表現をさせるためにどう指導すべきか多くの教師が日々考えてきました。

なぜ絵の具などで描くのか

そもそもなぜ絵の具や筆などを使って描くのでしょうか。絵の具を使って描くためには、水の量や筆の種類や扱い方、混色のしかた、用具がもつ機能など多くの基本的な事柄を理解し、さまざまな問題点を解決していくステップがあります。色鉛筆やクレヨンとは全く違う次元の材料です。そのような手のかかる材料や用具を使うには、使ったことで得られる効果があるべきです。色鉛筆やクレヨンにはできない表現方法があるからこそ絵の具を使う意味があります。ぼかしやにじみ、厚塗りや薄塗りといったさまざまな表現が、最初は困難を感じるかもしれませんが、慣れていくうちに中学生でも十分満足できる結果が残せる、それが絵の具という材料なのです。一方現代はコンピュータ等の普及により、電子的処理で水彩画とほとんど同じような表現ができるようになりました。学校現場でも描画ソフトによる表現が今後さらに一般化することが考えられます。しかし絵の具や筆を使って描く学習がなくなるとは考えられません。数千年数万年にわたって人類が行ってきた表現方法は今後も続いていくでしょう。教師は電子的な描画の特性を十分理解した上で従来からある絵の具や筆などの材料や用具による表現のよさやその意義を生徒に伝えていく必要があります。

今後に向けて

新しい学習指導要領では育成を目指す資質・能力が示されました。単に作品をつくるために題材を設定するのではなく、生徒にどんな表現ができるようになってほしいのか、どんな力を伸ばしてほしいのかを、教師は今まで以上に考える必要があります。中学校での体験は将来につながる大きな財産になります。基本的な技能の習得の有無が原因で豊かな創造活動ができないのであればそれはとても残念なことです。豊かな表現につながる材料や用具の適切な指導は今後も重要であると言えるでしょう。

中学校美術

美術の 道具箱

教授用資料



「塗る」



- 筆の使い方 2
- 絵の具とパレットの使い方 4
- 制作のための効果的な工夫 6
- 描く材料を指導する意味 8

*本資料は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

開隆堂

編著者

監修	元神奈川県公立中学校教育研究会・美術部会長 元横須賀市立衣笠中学校 校長 元藤沢市立善行中学校 教諭	佐藤 有功 姉齒 康光
執筆	川崎市立富士見中学校 教諭 川崎市立玉川中学校 教諭 川崎市立中野島中学校 教諭 横浜国立大学教育学部 教授	森田 綾 柳田 みちる 柳原 麻子 小池 研二

中学校美術 教授用資料 美術の道具箱(塗る)

2020年3月26日発行

非売品

発行所	開隆堂出版株式会社 東京都文京区向丘1丁目13番1号	印刷所	株式会社 平河工業社 本文・表紙デザイン 株式会社 自然農園
電話	03-5684-6121(営業) 03-5684-6117(編集)		



筆の使い方

筆の種類と太さで効果にどんな違いがありますか？

筆の水の量をどのように調節したらよいですか？

Q 筆の種類は？ それぞれの特徴は？



平筆

広い面をムラなくきれいに塗ることができる。

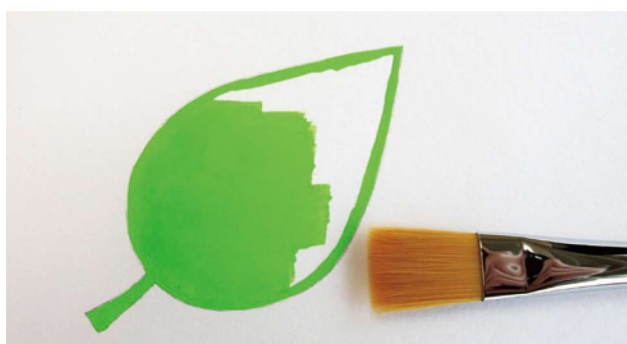
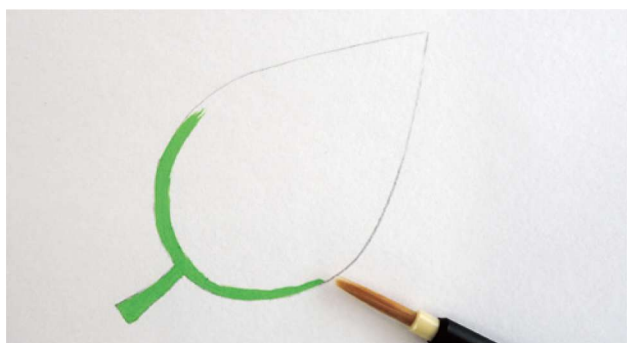
彩色筆

筆の先は細く、根元は太くなっているのので、塗りたい部分の形に応じて塗るのに適している。また、質感などを表現しやすい。

面相筆

細かい部分を塗る時に適している。また、塗りたい面の縁取りをする時にもみ出さずに塗ることができる。

■面の塗り方



初めに輪郭線や細かい部分を面相筆で塗り、平筆や彩色筆で内側を塗ります。平筆は縦、横と交差させるように塗ると筆跡がなくなり、ムラなく仕上がります。

Q 筆の太さによる効果の違いは？

筆の太さによって含むことのできる絵の具の量が変わってくるので、塗りたい部分の面積によって使い分けるとよいでしょう。広い面積に対して細い筆を使って塗ろうとすると細かい筆跡がたくさん残ってしまうので、きれいに均一に塗りたいときは、筆の太さに注意が必要です。

Q さまざまな種類の筆の使いみちは？

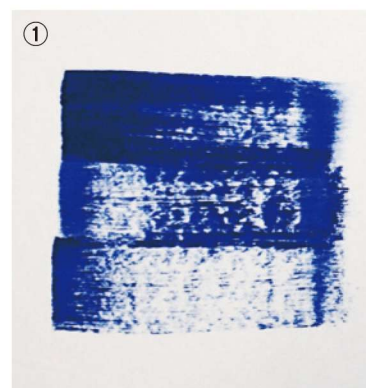
塗る素材にあわせて筆を使い分けるとにより効果的に仕上げるすることができます。大きさや太さなど用途に合ったものを使いましょう。

和紙や画仙紙などの柔らかい紙などには、刷毛で塗ると面白い表現ができます。塗る面積や、表したい内容によって筆の大きさを使い分けてください。

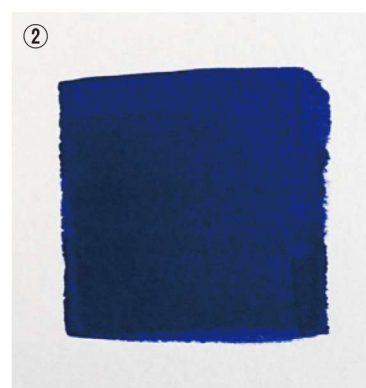
Q 不透明水彩絵の具を使うときに適切な筆の水の量は？

アクリルガッシュやポスターカラーなどの不透明水彩絵の具の場合、ムラなく色面を塗るのに適した水の量があります。絵の具に水を混ぜるときにとろみがあるくらいの固さにすると丁度よいです。

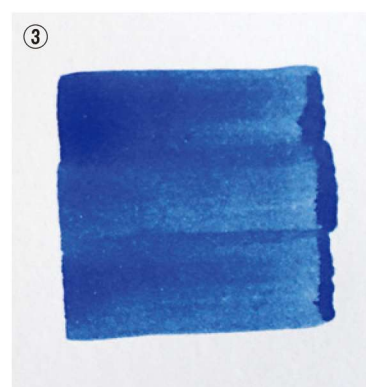
1. 水が少ないとかすれてしまいます。また、画面に厚みが出て乾くとひび割れができることがあります。



2. ちょうどよい水の量にすると、面を均一に塗ることができます。



3. 水が多いと下の画用紙の色が透けて見えてしまいます。



基本的な使い方を知った上で、表したい内容により、水の量を変えることも大切です。どんな素材にどのように表したいかによって、水の量を加減しましょう。

①はかすれを表現したいときに適した水の量です。筆に含ませた絵の具を十分に落としてから塗っても、同じようなかすれを表現することができます。

③はにじみやぼかしなどの表現に利用できます。単色で濃淡のあるぼかしや、違う色同士をにじませたり水の量を変えたりすることによって、さまざまな効果を生み出すことができます。また、重色の効果を出したいときにも利用できます。

Q 水の量はどのように調整したらよいのか？



絵の具と水を混ぜるときには筆洗から水を筆で運びます。筆に含ませた水の量は、筆洗のふちやタオルなどを使って調節します。スポイトなどを利用してもよいでしょう。ムラなく均一に色面を塗るときは、ほんの1、2滴ずつ量を加えていきます。

絵の具と水を混ぜるときには十分に混ぜ合わせるようにしましょう。色を塗る際の色ムラになります。

また、ポスターカラーなどの場合、塗っている途中で足りしをなくすむように、絵の具の量は、やや多めにつくっておきましょう。



絵の具と水を混ぜ、塗る際には、筆にたくさんの絵の具がついていないように、パレットのふちなどで絵の具の量を調整してから塗ると、厚みがなくきれいに塗ることができます。

アクリルガッシュなどの絵の具を使うときの注意

★絵の具が乾くと水では落とせなくなる。

★パレットにラップをかぶせるなどの工夫をするとよい。

★絵の具を水道に流さずに片づけられる工夫をするとよい。



★コピー用紙を包装している紙は、表面がコーティングされているので、紙パレットとして利用することができる。



絵の具とパレットの使い方

パレットや筆洗はどのように使うとよいですか？

絵の具の混色や重色はどのようにしたらよいですか？

絵の具を使用する際、工夫して使用すると、より効率的かつ、効果的に表現につなげることができます。

Q パレットへの効果的な出し方は？

パレットには小さな部屋と、大きな部屋があります。絵画の場合は、右図のように基本的には小さな部屋に絵の具を出し、大きな部屋で混色を行います。

透明水彩絵の具は、乾いても水で溶き直して何度でも使えます。一度絵の具を出してパレットをつかっておけば、絵を描くたびに絵の具をしぼり出す必要はありません。絵の具を使うときは、水を含ませた筆でなでて溶くことで、手間なくすぐに絵が描けます。



(水彩絵の具用パレット)

- パレットをきれいに使うコツ**
- ★隣り合う絵の具同士が混ざっても大きな影響が出ないように、小さな部屋に色相環の順番に色を出しておくことよい。
 - ★透明水彩を使うときは、パレットを洗う必要がないので、汚れたと感じたら、ティッシュペーパーや小さな布などで拭いておくことよい。
 - ★アクリル絵の具は乾くと水では落とせなくなるので、使い終わったらよく洗う。

(絵の具の出し方にはこの他にも明度順に並べるなどいろいろなやり方がある)

Q どうして透明水彩絵の具と他の絵の具の出し方は違うのですか？

絵の具の種類によって性質が異なります。透明水彩絵の具は、乾いても水に溶かして再び使用できますがアクリルガッシュは乾いてしまうと簡単に落とすことができません。

アクリルガッシュやポスターカラーの場合、パレットや筆はその都度きれいに洗うようにしましょう。生徒から「つくった絵の具をとっておきたい。」と言われても、絵の具により扱い方が違うので、事前に絵の具の特徴を伝えておきましょう。

透明水彩絵の具の特徴

- 絵の具を重ねると下に塗った色が見える。
- 乾いても水をつけた筆でなぞると溶け出すので、重色をする際は筆を何度も往復しないようにする。

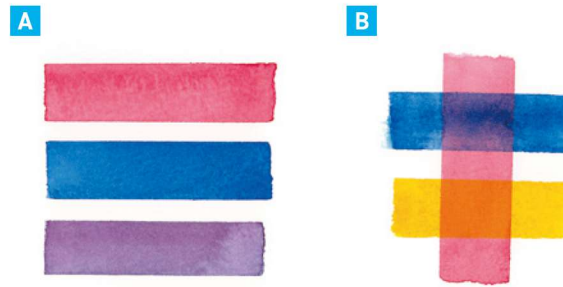
※上の色を重ねたときに最初に塗った色が溶け出す。その効果をねらって、あえて重ねることもできる。

ポスターカラーの特徴

- 乾燥後、下の色を隠して上に重ねて塗ることができる。
- 広い面でもムラなく均一に塗ることができる。
- 水で薄めても透明感はいく。

Q 混色と重色の違いは？ (絵の具の乾かし方とその効果)

透明水彩による混色と重色

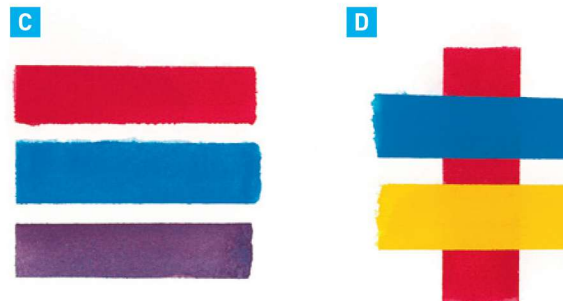


A 透明水彩の赤と青の混色を行うと紫に近い色ができます。水の量を調節することで透明感のある色味に仕上げることができます。水分量が多いため、完全に乾くまでは画面を傾けないようにしましょう。ドライヤーなどで乾燥を早めることができますが、ドライヤーの風圧で乾いたときの色味に影響が出るので注意が必要です。

B 赤を塗り、完全に乾かした後に、上から青と黄色を重ねた状態です。青と黄色の下にある赤が透けて見え、色の重なりが一目でわかります。しかし、水がついた筆で上から重ねているため、下の色が溶け出してしまいます。

あえて下の色を溶け出させ表現する効果をねらう場合、水を多くして下の色を溶かすように塗ってみましょう。下の色を溶かさずに重色を行いたい場合は、上の色を重ねる際にあまり筆を動かさず素早く塗り終えることが必要です。(使用した色：ローズマダー、コバルトブルー、パーマネントイエロー)

ポスターカラーによる混色と重色



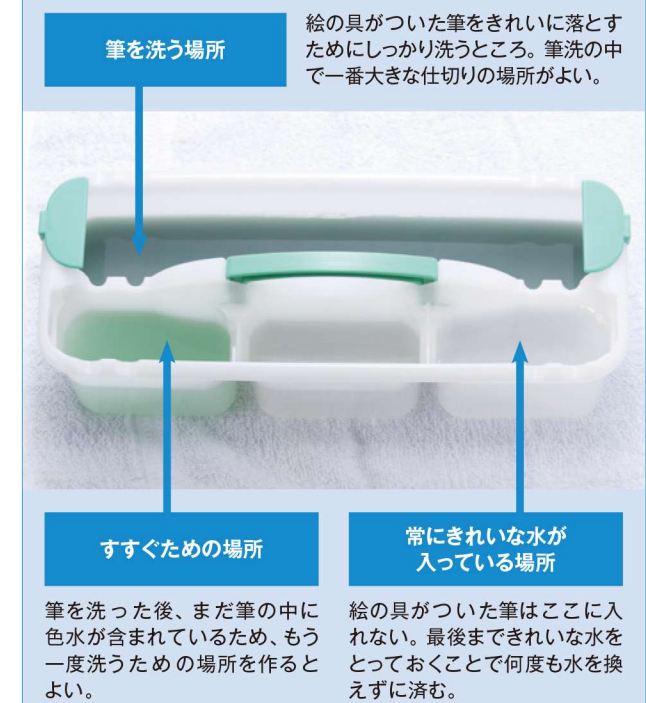
C ポスターカラーの赤と青の混色を行うと紫に近い色ができます。ポスターカラーで混色を行うと鮮やかな色は出しにくいですが。複数の色を混ぜる時は、混色表なども参考にしながら、あらかじめ必要となる色を準備するとよいです。水の量を調整することで、折り紙を貼ったかのようなムラのない仕上りにすることもできます。

D 赤を塗り、完全に乾かした後、上から青と黄色を重ねた状態です。完全に乾いた上に重ねると、黄色や白などの淡い色でも下の色を隠すことができます。(使用した色：カーマイン、コバルトブルー、パーマネントイエロー)

Q 筆洗の上手な使い方は？

筆洗にもさまざまな種類がありますが、どんな種類の筆洗でも以下の点を守ると効率的に使用することができます。

筆洗の仕切りの使い分け



絵の具がついた筆をきれいに落とすためにしっかり洗うところ。筆洗の中で一番大きな仕切りの場所がよい。

筆を洗った後、まだ筆の中に色水が含まれているため、もう一度洗うための場所を作るとよい。

絵の具がついた筆はここに入れておかない。最後まできれいな水をとっておくことで何度も水を換えずに済む。

絵の具がついたまま筆を放置すると、絵の具が固まってしまい、後で落とすことができなくなり、筆を傷めてしまいます。使い終わったらすぐに洗きましょう。

筆の手入れ チェックリスト

- 付け根までよく水で洗い流したか。
- タオルなどで水気をしっかりととり、穂先を整えたか。
- 風通しのよいところで乾燥させたか。



制作のための効果的な工夫

「絵は好き。」だけど絵の具は苦手？

思い描いていたアイデアが、絵の具での表現になると、

思い通りに表せない生徒がしばしば。どうアプローチすればいいですか？

中学校の美術で扱う水彩絵の具での表現には、一番身近な描画材料である鉛筆やペンで描く感覚とは異なる特徴がある。

水彩絵の具の表現の特徴

- 筆先の柔らかさによる線の太さの変化がある。
- 水分量の調整でいろいろな表現ができる。
- 一度失敗しても気軽に消せない。

中学1年生の初期ではこのような点から、アイデアを絵の具で表すことに苦手意識をもってしまふ生徒がしばしば見受けられます。「絵の具だとできないこと」ではなく、「絵の具でしか表現できない魅力」を生徒に伝え、さまざまな試作を通して、生徒が想像したとおりに表せる力を育てましょう。

Q 絵の具で失敗させないようにするには？

「小さな失敗と成功」をたくさん繰り返しましょう！

水彩絵の具の表現では、筆選びや水分量、絵の具の混ぜ方など、さまざまな要素で表現が変わってきます。紙質との相性も大切です。

小さく切ったさまざまな紙(右図はキャンバス地の厚口画用紙)を何枚もリングで止めた**トライカード**を制作して与えると、生徒は其中で、自分の表現意図に合った技法を気軽に試していきます。この失敗と成功の経験が多いほど、豊かな表現ができるようになります。白い画用紙を前に「失敗は許されない。」と委縮させるのではなく、「こうしたいから、あの技法を使ってみよう!」と、自信と主題をもって表現できる力を育てましょう。

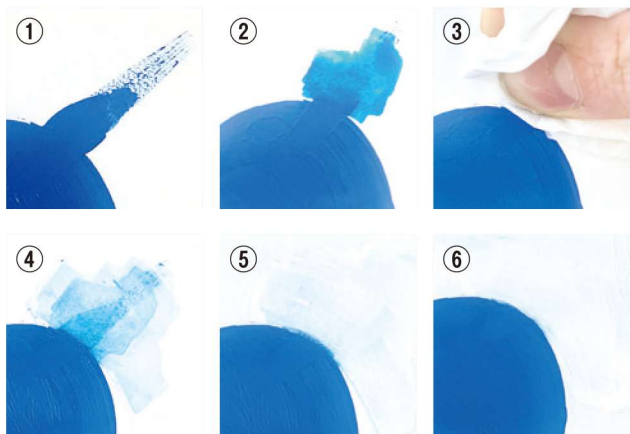


Q それでも失敗してしまったら？

「あせてこすらない!」「乾かして、重ねる」

平面構成などで多用される不透明水彩のポスターカラーの場合、はみ出しなどの修正については、「乾かす」ことが原則です。ポスターカラーはアクリル絵の具と違い水溶性です。乾かないうちに慌てて水分を含んだ絵の具を上から重ねても色が混ざって溶け出してしまいます。慌てずにまずはみ出してしまった部分をティッシュペーパーなどで上からそっと押さえ、こすらずに絵の具の水分を吸い取るなどして乾かしましょう。

濃い色がはみ出してしまい、その上に薄い色を重ねたい場合や、紙の白を残したかった部分にはみ出してしまった下図①の場合などは、「洗い出し」を応用して修正するとよいでしょう。



②きれいに洗った筆に水をつけ、はみ出し部分を優しく溶かし出す。③ティッシュペーパーなどで水分を吸い取る。④よく乾燥させる。⑤少なめの水で溶いた絵の具を上から塗る。⑥再び塗り重ねる。

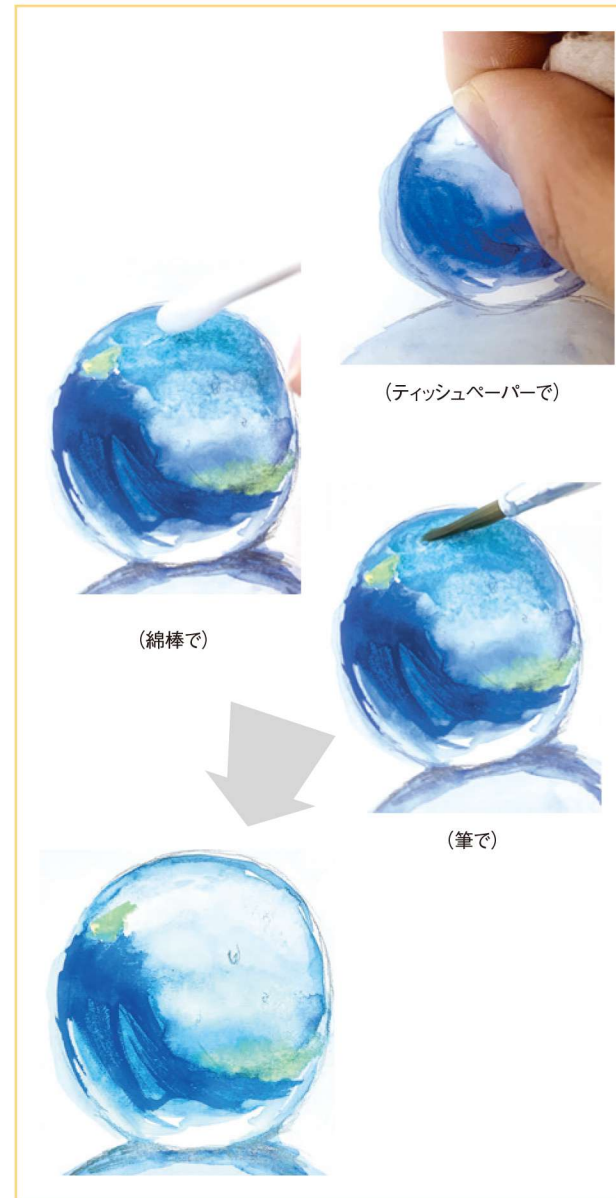
洗い出しをする場合、紙の種類によって紙がふやけたり、繊維が崩れてしまったりするので水分量を必要以上に多くせず、強くこすらないようにしましょう。はみ出して間もない場合や、もともとの水分量が多かった場合は洗い出しだけで修正ができる場合もあります。上から重ねる絵の具の水分量が少なすぎると、ひび割れや、表面の凹凸が目立ってしまうので、修正が乾燥した後に、水分を少量含んだ筆でならすとよいでしょう。

Q 薄塗りと厚塗りの違いとは？

水彩画の薄塗り(ウォッシュ技法など)では、絵の具に混ぜる量や、紙の吸湿性を利用し、ぼかし、洗い出し、にじみなどで紙の地の色を生かした表現などができます。

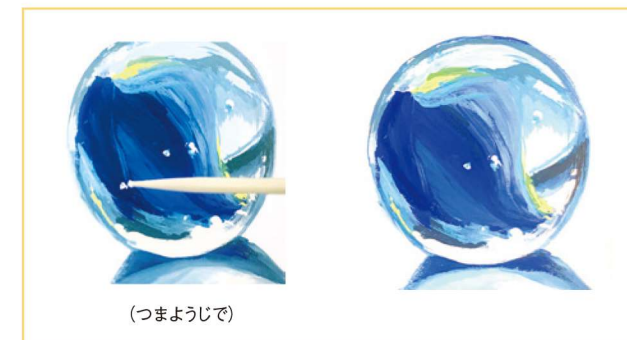
厚塗りは、油絵や、それに近い性質で描けるアクリル絵の具での表現に多く見られます。どの種類の絵の具を使うかによって、表現方法はさまざまなので、ここでは授業で多用される不透明水彩であるポスターカラーに限定した説明をします(p.4「ポスターカラーの特徴」参照)。

A 薄塗りの表現

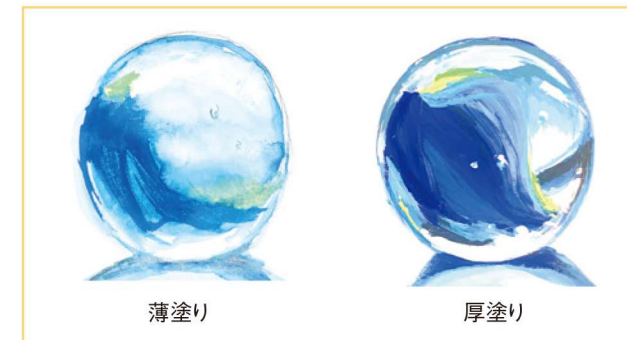


薄塗りの場合、絵の具に対して水分量を多めに溶き、紙の白さを生かしてハイライトを残し表現します。水を塗った後に色を垂らしてみたり、塗った色を水でにじませてみたりすることでさまざまな風合いが出せます。またティッシュペーパーや綿棒などで細部の洗い出しがしやすくなります。

B 厚塗りの表現



一方、厚塗りでは、絵の具に対する水分量を少なくし、紙の地の色を残すことなく重ね塗りしていきます。ポスターカラーの場合、水溶性でありながらも、乾燥後は重ね塗りをしても溶け出しにくい特徴をもっています。厚塗りの場合は、にじみやぼかしを用いずにきっちりと細部を描くことができるので、先の細い筆やつまようじなどを使った表現にも向いています。薄塗り、厚塗りのどちらも水分量や手順が重要と言えるでしょう。



上図左が薄塗り、右が厚塗りの作品です。下の作品は手前の濃いビー玉は厚塗りで、遠くに行くにつれて薄塗りになるように描いており、地面に落ちる影には薄塗りが使われています。

大切なのは技法の名前を覚えたり「厚塗りだ。」「薄塗りだ。」と区別したりするよりも、生徒がさまざまな方法を試し、そこから感じられる効果を実感し、自分が表したいものにはどれが合うのかを考え、選び、表現する力を身につけることです。生徒が自ら見つけていけるよう、指導していきましょう。

